佼成学園高等学校卒業式　理事長祝辞

『佼成学園卒業にあたり』

コロナウイルスへの対応のため学校は臨時休校となり、卒業式も危ぶまれておりましたが、皆様のご努力の中で規模を縮小してなんとか行うこととなり、ほっと安堵しております。

これまでの皆様の三年間あるいは六年間を振り返り、その努力、研鑽を讃えると共にこれからいよいよ新たな世界に飛び出していくことを新たな世界を切り開いていくことを祈念し、期待するものであります。そういう意味で、卒業はこれからの世界へのスタートを切るときでもあり、このような現実のある意味厳しい世界を踏まえつつも、勇気と希望をもって各自の各々の人生への歩みを始めていただきたいと思います。

本学園では「五つの実践」ということを大切にしております。これは主に挨拶を身に着けることとも言えるかと思いますが、佼成学園に於てこの挨拶をしっかりと身に着けていただいたことは大いに誇りに思っていただきたいと思います。私自身若い人に対して感じることの一つに、この挨拶をできる人とできない人がいるということがあります。やはり挨拶のできる人とは自然に心が開かれ、いろいろとそこに世界が広がってくることと思いますが、挨拶をしない方ではやはりその辺が難しくなります。こんな簡単なことなのにと思うのですが、それがその人の人生を切り開く大きなポイントになっていくと思います。そのような意味で、このことをこの三年間六年間、佼成学園に於て身に着けていただいた皆さんにとってはこれからの人生にきっと大きな意味を持ってくると思いますので、この「五つの実践」は、これで卒業ということ

ではなくこれからも続けていっていただきたいと思うところであります。

最後に皆様にお話ししておきたいと思うことは、思っていただいている側は、その思っている方の思いの重さをなかなかつかめないということです。生徒を思う教師の思い、子を思う親の思い、そういったものはなかなか生徒の立場からは、そして子の立場からはなかなかそのすべてが分かるものではありません。それは自分がその立場になってはじめて気づく、とも言えましょう。しかしながら、卒業という大きな節目に臨み、そのような先生や親の思いを各自の中でかみしめ感謝していく、これはとても大切なことと思います。

これからもきっといろいろな出会いがあり、そこに学びがあるでしょう。皆様の光輝く人生に心からエールを送らせていただきます。皆様、ご卒業誠におめでとうございます。

合掌

令和二年三月十五日

佼成学園理事長　椎名啓至